

主の日に備えて生きる

マタイ 25 : 14 - 15、19 - 29

I テサロニケ 5 : 1 - 10



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年11月19日

聖霊降臨後第25主日

聖光教会にて

11 月も半ばを過ぎて降臨節の足音が聞こえる頃となりました。それと関係して、主日の聖書日課には先週から「主の日」という言葉が出て来ました。今日もそうです。

「主の日は近づいている」ゼファニヤ 1:7

「主の日は来る」I テサロニケ 5:2

「僕たちの主人が帰って来て……」マタイ 25:19

今日の旧約聖書も使徒書も、そして福音書も、主イエスが再び来られる——キリストの再臨——ということを意識するように促しています。

わたしたちは二つの時の間を生きています。過去（後ろ）を振り返ると、救い主イエス・キリストがひとたび来られた、という恵みの出来事があります。クリスマスです。未来（前方）を仰ぐと、救い主イエス・キリストが再び来られる、という約束があります。キリストの再臨です。わたしたちは後ろからも前から囲まれ、支えられている。二つの時の間を生きるとはそういう意味です。

今申し上げたことはとても大事なことなのですが、ひょっとしたらわたしたちのうちには、ひそかな疑問や不安があるかもしれません。はっきり言うと、二つあると思います。一つは、ほんとうにキリストの再臨などということがあるのか、という

疑問です。もう一つは、キリストの再臨があるとして、それはとても恐ろしいことではないか、という不安です。

結論から言いますと、キリストの再臨はある。将来、イエス・キリストはわたしたちを迎えるために必ずおいでになる。そう言うのは、聖書がそう証言しているからです。イエスご自身がそう約束されたからです。最後の食卓でイエスはこう言われました。

「行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。」ヨハネ 14:3

もう一つの問題は不安です。ミケランジェロの「最後の審判」の絵をご覧になったことがあるでしょうか。あそこに描かれているように再臨のキリストは恐ろしい存在で、わたしたちを永遠の滅びの中に追放してしまうのではないか、という不安です。確かに聖書の中には厳しいことが書かれている箇所もあります。しかしわたしはこう思います。ひとたび来られたわたしたちの救い主は、ご自分の命を与えるほどにわたしたちを愛された。主イエスは今もわたしたちを愛しておられる。そのイエスが、再臨の時、急に人が変わったように目をむいてわたしたちを処

罰・断罪しに来られるはずがない。わたしたちとこの世界を完全に救うために来られるのだ、ということです。その時には、わたしたちの背いたところは正され、罪に濁ったところは清められるでしょう。そうしてわたしたちは、主イエスとの再会の喜びを味わうのです。

このように思いながら今日の福音書を見てみましょう。天の国のたとえであり、キリストの再臨のたとえです。ある人が（というのは実は主イエス・キリストです）旅行に出かけるとき、自分の僕たちに財産を預けます。ある人には5タラント、ある人には2タラント、もう一人には1タラント。それぞれが託されたものを活用するように、主人は期待しています。

かなり日がたって主人が帰ってきました。清算をします。5タラント預かった人はもう5タラントもうけました。主人はこう言います。

「忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であつたから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」 マタイ 25:21

ここで「主人と一緒に喜んでくれ」と訳されたところは、直訳すると「あなたの主の喜びの中に入れ」です。つまり戻ってこられた主イエスが再会を喜んでおられる。イエスが、自分の

僕が精一杯生きて働いた、努力したことをこの上なく喜んでおられる。主はそこご自分の喜びの中に主の僕を招き入れられる。それで一緒に喜ぶのです。2 タラントン預かった人の場合も同じです。

ところが1 タラントン預かった人の場合は違いました。彼はこう言います。

「御主人様、あなたは蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていましたので、恐ろしくなり、出かけて行って、あなたのタラントンを地の中に隠しておきました。」 25:24-25

ここに彼の大きな間違い、不幸があります。神が、主がどのような方であるか、とんでもない考え違いをしたのです。「蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていましたので……」。主人つまり主イエスのことを、まるで悪代官呼ばわりしています。彼は主を「知っていた」のではなくて、とんでもない間違った理解をしていたのです。

このような間違った理解して不幸な結果を招かないように、というのがこのたとえの本来の趣旨です。主はわたしたちの生涯の労苦と努力を大切な、貴いものとして見て喜んでくださる。そしてわたしたちとの出会いを待ち望んでおられるのです。

今度は使徒書を読んでみましょう。

「神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによる救いにあずからせるように定められたのです。」 I テサロニケ 5:9

神がわたしたちのために定められたのは、「わたしたちの主イエス・キリストによる救い」です。わたしたちが将来出会うのは怒りの神ではなく、救いの神です。わたしたちと出会おうとして来られる救い主イエス・キリスト。この方は喜びと救いを用意してこられます。

「主の日は来る」

その日のために神さまの側に、イエスさまの側に用意があります。わたしたちを救いに定めてくださった方は、その日、わたしたちを迎えて完全に救い、平和と喜びと命でわたしたちを満たそうとしておられる。これが神さまの側の用意です。

わたしたちの側の用意はどうでしょうか。使徒書にこう言われています。

「わたしたちは信仰と愛を胸当てとして着け、救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでいきましょう。」

I テサロニケ 5:7-8

信仰と愛と希望が語られていました。神さまからいただいた信仰。神さまからわたしたちに注がれている愛。わたしたちのほうからも神と隣人を愛する愛。すでに救いに招かれ、将来その救いが完全なものとされる、その日を仰ぐ希望。この信仰と愛と希望を心に保ち身にまとして、主の日の備えをしましょう。

主の日。イエス・キリストの再臨の日。わたしたちが再びイエスさまと出会う日は、涙の日です。喜びの涙です。またわたしたちが自分の誤りと罪を知るざんげと悔い改めの涙です。そして赦され生かされた感謝の涙です。

救い主キリストは、わたしたちをその日、天国の宴に招いてくださいます。聖餐式はこの宴の前触れです。この聖餐式を重ねていくその先に、天国の宴が、主との幸せな再会が待っています。

祈りましょう。

主イエスさま、あなたが再び来られる日を信じて待ち望ませてください。その日を目指しつつ、この地上での命を許されている間、信仰と愛と希望によって熱心に生きることができるよう。尊いあなたのみ名を賛美します。アーメン